

1. 研修テーマ 学校全体で取り組む「学び合い」への授業改善
2. 研修日 平成28年5月26日（木）
3. アドバイザー 杉江修治 教授（中京大学）

4. 研修のまとめ

県西部のいくつかの学校と共に協同学習に取り組み、「西部学びの会」を立ち上げてから7年目を迎えた。生徒がお互いに学び合う中で、より良い人間関係を育み、生徒の主体性、やる気、学力を伸ばしていくことをねらいとしている。授業研究の際には、学校間でお互いに声を掛け合い、授業を見合いながら、研修を深め合っている。本年も、そういった学校が集まり、教育センターの支援を受けながら研修を計画・実施することができた。

今回の研修では、次の2つの視点を定め、授業研究を行った。

- 視点1 生徒が「課題が明確で、振り返りは適切だったか」
- 視点2 生徒が「ねらいの達成に向けて、学び合い・高め合いができていたか」

事後の研究会では、上記2つの視点を中心に、様々な学校の先生とマトリクス法によるグループ討議を行い、①工夫・良かった点、②手立て・改善が必要なことについて6つのグループで話し合いを行った。その後、6グループの中から2グループを指名して発表し、全体で共有した。各グループの内容をまとめると以下の内容である。

①工夫・良かった点、さらに伸ばしたいこと	②手立て・改善が必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標と動機づけが明確で、生徒が取り組みやすかった。</li> <li>・課題が明確で、つきたい力、ねらいと学習の値打ち、評価のポイントをあらかじめ伝えていたのが良かった。</li> <li>・できるようになってほしい力が具体的に示されていてゴールの姿を連想しやすかった。</li> <li>・食レポの例がビデオで示されていて課題が分かりやすかった。</li> <li>・観点を分けることで、クラスや班で協力することが、責任感や楽しみを感じながら自然にできていて、全員が参加していた。</li> <li>・授業パターンがよく身につけていて生徒に安心感があるように感じた。</li> <li>・授業者が、発表の仕方等、場面ごとに評価していたのが良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り（ついた力の確認）の時間の確保が必要である。</li> <li>・5つの視点を示し、グループごとに分けて調べる方法は、思考を限定させてしまったかもしれない。</li> <li>・文例になると、話し合いが少なくなった。</li> <li>・言葉を集める時間と文例を考える時間を分けた方が良かった。</li> <li>・班で出てきた意見をもう少し時間をとって全体共有できたら良い。</li> <li>・発表原稿があり、文章が作りやすかったが、それに頼りすぎ、広がりが見えにくいので、徐々に自由度を高めていくのがよい。</li> </ul>

アドバイザーの杉江先生からは、今回の授業について、次のような指導講評をいただいた。

- ・生徒たちが生き生きと活動したよい授業だった。
- ・単元目標がワークシートに書いてあるなど、単元の見通しを持たせていてよかった。
- ・学びの価値を伝えていたことがよかった。
- ・導入に時間をかけて何をやるか生徒にしっかり理解させていたことがよかった。
- ・5観点の指示をしっかりとっていたことがよかった。
- ・意欲的に取り組める仕掛けがたくさんあってよかった。
- ・振り返りの視点や次時の見通しをもっと伝えておくとよかった。

さらに指導講評をふまえて、『協同学習の基本と学び合い』というテーマのもと、次のような話をしていただいた。

○授業づくりの基本的な観点—生徒主体の授業づくり

○教育を進める上での大切な2つの原理

- ・生徒は成長したがっている。
- ・生徒は仲間とのより良い関係を求めている。

○協同学習の考え方—グループ学習が協同学習ではない。

- ・生徒の認知過程を考えたいうえでの授業づくり。
- ・一人ひとりの学びを支える協同的な学級集団づくり。

\*協同的な学級は「仲よし集団」ではなく「課題追求のできる集団」である。

○授業の一般的な流れ

- ・明確な課題提示（見通しを持たせる。学びへの前向きな構えを持たせる。）  
一本時の課題の明示、授業の流れを知らせる、学びの値打ちを理解させる。
- ・参加型の授業課程（しっかりと個人思考、グループ、一斉での学び合い。）
- ・学びの振り返り（成長の手応えを知る・学びの値打ちを確認する。）

○学び合いの姿、生徒のコミュニケーション能力

- ・生徒のコミュニケーション能力不足を学び合いがうまく進まない理由にしないこと

○学び合いの質

- ・個人の差を認め合った活動を基盤にしている。
- ・たがいの成長意欲を信頼し合う態度が基盤となっている。
- ・全員参加。
- ・わからないところを教える、教えてもらう。
- ・意見を出し合い個人の理解を深め、広げる。
- ・意見を練り上げ、より質の高い解をグループ・学級で作り出す。

○学び合いの質を高める仕掛けづくり

- ・明確な集団課題を示す。
- ・学び合いをより成功できる手順の指示をする。
- ・練り上げる議論のできる仕掛けをする。
- ・学級の目標を工夫する。
- ・異質なメンバーで集団編成をする。
- ・適切な座席配置をする。
- ・役割の指定をする。
- ・グループ間交流を採用する。

○生徒が動く時間の確保

- ・教師の話す時間をいかに減らすか。
- ・学び合い・個人思考への介入をいかに最小限にするか。
- ・無用な声かけをしていないか。
- ・教師がかかわるべきタイミングはどんな時か。
- ・まとめ、振り返りこそ、学びの意味を知らせるとき。

また、協同学習の基本は「授業のユニバーサルデザイン」の基本でもあることも教えていただいた。

生徒同士の「学び合い」は、仲間づくりはもちろん、学力面でもプラスに働くものであると考えている。今後もそれぞれの学校で「学び合い」の実践がさらに深まっていくように声を掛け合い、研修を深めていきたいと考えている。